

平成30年

つがる市子ども議会 会議録

平成30年12月26日開会

平成30年12月26日閉会



つがる市子ども議会

開会式

- 1 開会の言葉 教育長 葛 西 岨 輔

議事日程（第1号）

平成30年12月26日（水曜日）午前9時45分開会・開議

- 1 議長あいさつ

- 1 開会、開議宣告

- 1 議事日程

日程第1 議席の指定

日程第2 会議録署名議員の指名

日程第3 会期の決定

日程第4 諸般の報告

日程第5 一般質問

第1席 半 田 美 月

第2席 吉 田 凧乃可

第3席 葛 西 未 々

第4席 江 良 啓 杜

第5席 井 上 朝 陽

第6席 秋 元 乃 愛

第7席 秋 田 莉 那

第8席 高 橋 杏

第9席 中 村 舞

第10席 今 亜由美

第11席 川 添 瑠 菜

第12席 川 浪 真 鈴

第13席 蝦 名 亮

第14席 村 上 日向汰

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（16名）

- 1 番 小笠原 音 々（向陽小学校6年）
- 2 番 葛 西 未 々（穂波小学校6年）
- 3 番 江 良 啓 杜（瑞穂小学校6年）
- 4 番 井 上 朝 陽（森田小学校6年）
- 5 番 工 藤 悠 眞（育成小学校6年）
- 6 番 吉 田 凧乃可（柏小学校6年）
- 7 番 秋 元 乃 愛（稲垣小学校6年）
- 8 番 秋 田 莉 那（車力小学校6年）
- 9 番 半 田 美 月（向陽小学校6年）
- 10番 高 橋 杏（穂波小学校6年）
- 11番 中 村 舞（瑞穂小学校6年）
- 12番 今 亜由美（森田小学校6年）
- 13番 川 添 瑠 菜（育成小学校6年）
- 14番 川 浪 真 鈴（柏小学校6年）
- 15番 蝦 名 亮（稲垣小学校6年）
- 16番 村 上 日向汰（車力小学校6年）

欠席議員（0名）

なし

平成30年つがる市こども議会

一般質問通告一覧表

質問 順位	学校名	学 年	氏名	質問事項
1	向陽小学校	6	半 田 美 月	つがる市の農業について
2	柏小学校	6	吉 田 凧乃可	コンサートホールの建設について
3	穂波小学校	6	葛 西 未 々	こども医療費について
4	瑞穂小学校	6	江 良 啓 杜	縄文遺跡について
5	森田小学校	6	井 上 朝 陽	つがる市の文化について
6	稲垣小学校	6	秋 元 乃 愛	つがる市の観光PRについて
7	車力小学校	6	秋 田 莉 那	しじみ保護、不漁対策について
8	穂波小学校	6	高 橋 杏	少子高齢化について
9	瑞穂小学校	6	中 村 舞	スポーツについて
10	森田小学校	6	今 亜由美	つがる市の国際交流について
11	育成小学校	6	川 添 瑠 菜	教育クラウドに対する財政の計画について
12	柏小学校	6	川 浪 真 鈴	お年寄りが利用しやすい交通手段について
13	稲垣小学校	6	蝦 名 亮	学校教育の充実について
14	車力小学校	6	村 上 日向汰	若者の定住政策について
議長	育成小学校	6	工 藤 悠 眞	
副議長	向陽小学校	6	小笠原 音 々	

説明のため出席した者の職氏名

市 長	福 島 弘 芳
副 市 長	倉 光 弘 昭
教 育 長	葛 西 岨 輔
総 務 部 長	今 正 行
財 政 部 長	台丸谷 積
民 生 部 長	山 谷 智
福 祉 部 長	白 戸 登
経 済 部 長	山 内 信 昭
会 計 管 理 者	稲 場 慎 也
教 育 部 長	長 内 信 行
消 防 長	山 崎 和 人
総 務 課 長	高 橋 一 也
財 政 課 長	平 田 光 世
市 民 課 長	川 村 博 文
福 祉 課 長	佐 藤 廣 文
農 林 水 産 課 長	工 藤 睦 郎
土 木 課 長	小笠原 康 人
建 築 住 宅 課 長	山 口 敬 樹
教 育 総 務 課 長	鳴 海 義 仁
選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 長	三 上 雅 弘
農 業 委 員 会 事 務 局 長	木 村 真 悦
監 査 委 員 事 務 局 長	工 藤 賢 聖

職務のため議場に出席した者の職氏名

議 会 事 務 局 長	成 田 幸 祐
議 会 事 務 局 次 長	秋 田 俊
議 会 事 務 局 次 長 兼 議 事 係 長	葛 西 正 美
議 会 事 務 局 主 幹	野 村 麻 子

◎開会式、教育長あいさつ

○教育長（葛西巖輔君） 皆さん、おはようございます。

このたびは、つがる市子ども議会に参加してくださり本当にありがとうございます。

こうして皆さんを見てみると、きりっと凛々しく大変立派で、本当の議員のように見えます。学校の代表だけあって、普段の学校生活でも勉強やスポーツ、音楽や児童会活動などで頑張り、全校児童のお手本となってくれていることが伝わってきます。今は緊張でいっぱいかと思いますが、どうかこうリラックスして普段の学校のとおり楽しんで質問してください。私は教育長という仕事をしていますが、どうすればつがる市の学校がもっと良くなるのだろう。どうすればつがる市の子どもたちが、楽しく学校に通い伸び伸びと勉強したり運動したりすることができるのだろうということをいつも考えています。私だけで無く、市長をはじめここに座っている人たちはみんな、つがる市を良くするにはどうしたらいいんだろう。どうすればつがる市の人々は幸せに暮らすことができるのだろうと考えながら、それぞれの専門、役割に応じた仕事をしています。一生懸命仕事をしているのですが、私たち大人には気づかないこと、小学生の皆さんだから気づくことがいろいろあるはずです。これからのつがる市をどうすればいいのか、皆さんの考えを参考にしながら皆さんと一緒に考えて行きたいと思いますので、本日はどうかよろしくお願いします。

○議会事務局長（成田幸祐君） 皆さん、おはようございます。

傍聴の皆さんにお知らせします。まず、会議中は私語を慎み静かに傍聴してください。議場内では、携帯電話等の通話はできません。あらかじめ電源を切るかマナーモードにしてくださいようお願いいたします。それから、傍聴席においてカメラで撮影することは認めますが、会議の様子を動画撮影しておりますので、フラッシュ等の点滅はご遠慮ください。また、トイレは、傍聴席を出るとすぐ右側にございますので自由にお使いください。

以上、よろしく願いいたします。

◎議長・副議長紹介、議長あいさつ

○議会事務局長（成田幸祐君） 今回のこども議会における議長、副議長につきましては、あらかじめ申し合わせにより決定しておりますので、ご報告いたします。

議長は、育成小学校、工藤悠眞君。

副議長は、向陽小学校、小笠原音々君が選ばれております。

ここで、こども議会の議長であります工藤君に議長席に着いていただきます。

工藤君、お願いします。

〔議長 工藤悠眞君登壇〕

○議会事務局長（成田幸祐君） これより修礼を行いますので、ご起立ください。
礼。

〔修礼〕

ご着席ください。

○議長（工藤悠眞君） 本日のこども議会の議長を務めることになりました育成小学校6年の工藤悠眞です。福島市長をはじめ理事者の皆さまには、お忙しいとろ、私たちに、このような機会を与えてくださったことに感謝します。私たちは、つがる市こども議会が開かれることを知り、学校の代表で議員に選ばれてから、この日を楽しみにしてきました。きょうは、日頃私たちが市に対して感じている疑問や要望について、力いっぱい質問させていただきます。

失礼はお許しのうえ、明快な答弁をよろしくお願いします。

◎開会、開議宣告

○議長（工藤悠眞君） ただいまの出席議員数は16名です。定足数に達していますので、これからこども議会を開会いたします。

本日の会議を開きます。

（午前9時55分）

◎議席の指定

○議長（工藤悠眞君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1、議席の指定を行います。

議席は、議長において指定します。

現在、着席しています仮議席を本議席とします。

◎会議録署名議員の指名

○議長（工藤悠眞君） 日程第2、会議録署名議員の指名を行います。

本議会の会議録署名議員は、2番、葛西未々議員、3番、江良啓杜議員を指名します。

◎会期の決定

○議長（工藤悠眞君） 日程第3、会期の決定を議題とします。

本議会の会期は、本日1日にしたいと思います。

これに、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（工藤悠眞君） ご異議なしと認めます。

よって、会期は本日、1日とすることに決定いたしました。

◎諸般の報告

○議長（工藤悠眞君） 日程第4、諸般の報告をします。

本議会の説明員は、市長、副市長、教育長並びにその委任を受けた職員とします。

◎一般質問

○議長（工藤悠眞君） 日程第5、一般質問を行います。

質問の順序は、一般質問、発言通告一覧表の順序で行います。

あらかじめ申し上げます。

質問については、答弁も含めて6分以内とします。

◇ 半 田 美 月 君

○議長（工藤悠眞君） 通告順に質問を許可します。

9番、半田美月君の質問を許可します。

半田美月君。

〔9番 半田美月君登壇〕

○9番（半田美月君） 向陽小学校6年、半田美月です。よろしくお願いします。

つがる市の農業について質問したいと思います。私は、今つがる市で生活していますが、つがる市といえば、やはり盛んなのが農業です。そこで農業について2つ気になっていることがあるので、お聞きしたいと思います。

1つ目は、つがる市で作られている米の品種についてです。つがる市で作られているのは、つがるロマン、まっしぐら、青天の霹靂ですが、つがる市ではどのように全国に売り出しているのですか。私の考えでは、その米の良いところをPRしていけばいいと思うのですが、つがる市ではどのような取り組みを行っているのかをお聞きしたいです。

2つ目は、農業をしている人がどんどん減っていることについてです。農業をやっている人には高齢者が多く、また、若者が少ない状況です。そこで、つがる市では若者に農業を広めるために、どのような対策を取っているかお聞きしたいです。

○議長（工藤悠眞君） 9番、半田美月君の質問に対し、答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 皆さん、おはようございます。私は平成17年から、この議員に対して一般質問、特別委員会で答弁をしていますけれども、その時も緊張していますけれど、きょうは特別な意味で緊張しています。

それでは、第1席の半田議員の質問にお答えします。

はじめに、つがる市の農業についての1点目、つがる市で作られている米をどのように全国に売り出しているのか。また、PRなどの取り組みについてご説明いたします。

つがる市で生産される米は、平成30年産でおおよそ40,423トン生産され、約59万人の人が年間食べる量となっております。そのお米のほとんどが農協や集荷業者に出荷され、ほかの市町村のお米と一緒に「あおもり米」として、全国の消費者に届けられています。そのため、青森県全体で「あおもり米」として、テレビあるいはまた、ラジオや県内外でのイベント、キャンペーンなどでPRに努めております。

つがる市においても、米はつがるブランドの一つでありまして、東京、大阪、名古屋などへのトップセールスや販売会の際には、ほかの作物と併せて、農薬を減らすなどの特別な栽培をした米を販売・PRし、知名度アップを図っています。

次に、2点目の農業をしている人が減っていることについてお答えいたします。つがる市では、新規に農業を始める45歳までの若者に対して、最長5年間支援する農業次世代人材投資事業これを実施し、平成24年度から現在まで48名が新規に農業を始めています。

また、平成28年度からつがる市新規就農者支援事業これを実施し、市外からつがる市に移住し、新たに農業を始めようとする方を対象に、農業研修や住居費用を支援するなど様々なサポートを行っています。現在1名の方が来年の春から農業を始

めるため、研修中であります。

最後に、つがる市の一番の産業は農業であり、農業を活性化させることが市の活性化に結びつくと考えています。

半田議員を始め、活発な意見を言っていたいただける若い世代の皆さんはつがる市の財産であり、これからの市の発展に欠かせない存在だと感じています。皆さんが、生まれて良かった、住んで良かったと思えるつがる市を目指していきますので、一緒に頑張りましょう。

○議長（工藤悠真君） 9番、半田美月君。

○9番（半田美月君） 以上で私の質問を終わります。

私は、これからニュース、新聞、産直に行ったときなど、農業に対して興味を持っていきたいと思いました。

ありがとうございました。

○議長（工藤悠真君） 以上で9番、半田美月君の一般質問を終わります。

◇ 吉 田 風 乃 可 君

○議長（工藤悠真君） 6番、吉田風乃可君の質問を許可します。

吉田風乃可君。

〔6番 吉田風乃可君登壇〕

○6番（吉田風乃可君） 柏小学校6年、吉田風乃可です。よろしくお願いします。

私は、最近つがる市のことをたくさんの人に知ってもらいたいと思うようになりました。

つがる市には、2年前、市立図書館もできたし、お米やスイカ、メロンなど有名な農産物の産地でもあるし、つが一ちゃんという市民に愛されているマスコットキャラクターもいます。しかし、西北五地域以外の人や他県の人には、つがる市がどこにあって、どんな市なのかあまり知られていないように思います。そこで、私は5,000人以上の人が入れるコンサートホールを建設し有名な方々に来てもらい、県内をはじめ、他県からもたくさんの人につがる市に来てもらうきっかけをつくりたいと考えました。大規模なコンサートホールができれば、これに関わった仕事も生まれ、これからの若い人達がつがる市で働く場所が増え、それにともなって人口も増えていくのではないかと思います。コンサートホール建設を実現するためには、これから市や私たちができることには何があるのかお聞きかせください。

○議長（工藤悠真君） 6番、吉田風乃可君の質問に対し、答弁を求めます。

倉光副市長。

○副市長（倉光弘昭君） 吉田議員からご質問ありましたコンサートホールの建設についてお答え申し上げます。

今の質問の趣旨は2点あると考えております。まず一点目は、つがる市の知名度向

上に対する対策だと思えます。もう一点は、つがる市の人口減少対策、これをどうするんだということだと思っております。市では、これら2つの課題に対して、吉田議員の考えた対応策、解決策のキーワードが、コンサートホールの建設ということになったのだらうと思っております。この2つの課題は、まさに今喫緊の課題として市が取り組んでいるところでございます。地域活力創生総合戦略を策定して、その克服のために様々な施策を今頑張っているところです。議員がおっしゃるとおり、つがる市がどこにあって、どんな市なのか、まだ県外に知られていないという現状で、そういう現状に対して市では来年度から、4月以降になりますけれど、東京都内につがる市単独のつがる市東京事務所、これを開設する予定であります。ここのつがる市の東京事務所を拠点として、つがる市の情報発信を行い、市の魅力PR、観光、誘客、つがるブランド特産品のPRなどを進めて、知名度の向上、認知度の向上に取り組みたいと考えているところです。また、情報収集という役割も持ちますので、人口減少の要因の一つである若者の働く場がないという課題に対して、企業誘致に向けて東京事務所の職員が全力で取り組み、そして定住対策に結び付けたいと考えております。

最後に、コンサートホール建設を実現するために、どういうことができるのかとのご質問であります。コンサートホールの建設については、人口減少対策に向けた一つの対処方法であると理解はしております。多くの人が集い、賑わい、魅力あるまちづくりが求められているんだという吉田議員からの鋭いご提言だと考えております。つがる市には皆さんを育て、成長させていく素晴らしい環境が整っています。これからも、大いに勉学やスポーツに親しみながら、自分が暮らす郷土への愛着を持つとともに、日々の勉学やスポーツに一生懸命取り組んで親しんでいただければというふうに期待しているところであります。

○議長（工藤悠真君） 6番、吉田風乃可君。

○6番（吉田風乃可君） コンサートホールの建設をするには費用の問題もあると思えます。なので、人口減少対策を継続し、つがる市に入ってくる税が増えた時には、建設を前向きに検討していただけたらと思えます。

以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（工藤悠真君） 以上で6番、吉田風乃可君の一般質問を終わります。

◇ 葛 西 未 々 君

○議長（工藤悠真君） 2番、葛西未々君の質問を許可します。

葛西未々君。

〔2番 葛西未々君登壇〕

○2番（葛西未々君） 穂波小学校6年、葛西未々です。よろしくお願ひします。

私は、つがる市の医療費がなぜ無料なのかについて質問したいと思ひます。

私は今このつがる市で生活していますが、つがる市の医療費のことについて、3つほど気になっていることがあるのでお聞きしたいと思います。1つ目は、なぜつがる市の医療費は中学生までが無料なのかに関してです。つがる市の医療費を無料にするなら、小さい子から高校生までの医療費を無料にしたらいいのではないかと思います。まだ高校生は成人ではないのでいいと思うのですが、なぜ高校生が無料でないのかお聞きしたいと思います。

2つ目は、その医療費がどこから出ているのかです。0才から15才までの人口は調べたところ約3,500人でしたが、この医療費を払うのはかなり高額になると思います。その医療費がどこから出ているのかお聞きしたいと思います。

3つ目は、どうしてつがる市だけが、インフルエンザのワクチンが2回分無料なのかに関してです。ほかの市の人は、2回分もインフルエンザの予防接種が無料で受けられないのに、つがる市の人たちは2回分無料で受けられるのかお聞きしたいと思います。

○議長（工藤悠真君） 2番、葛西未々君の質問に対し、答弁を求めます。

福祉部長。

○福祉部長（白戸 登君） おはようございます。葛西議員の質問にお答えします。

一つ目の高校生までの医療費無料化についてです。子ども医療費は子育て支援の一環として、中学生までの医療費を無料化にすることにより保護者の医療費負担を軽減し、子どもの育成環境の向上を目的として23年度からスタートしました。高校生までの無料化は毎年、実施に向け検討しています。しかし、限られた予算の中では、優先度の高い事業から実施することになっており、市全体の事業の中では、実施するまで優先度が高くないと、現在は判断しているところです。

次に、二つ目の医療費はどこから出ているのかという財源についてです。本市には、旧車力地区に米軍基地のXバンドレーダーという設備があります。その設備を受け入れたことより、国から交付金が交付されてきました。

その財源の使い道として、市民の生活に役立てることが第一と考えた結果、子ども医療費の無料化などを実施しています。

三つ目のインフルエンザ予防接種無料化についてです。本市は、次の世代を担う子どもの健康を大切に考えております。また、インフルエンザが流行しますと学級閉鎖など学校生活に大きな影響を及ぼします。予防接種は大人だと1回で済みますが、12歳までは2回おこなう必要があります。そのため費用を気にして接種をためらうことが無いように市が全額負担することで、より多くの子ども達が受けられるようにしました。これも市民生活においては有効な事業だと考えたからです。

以上であります。

○議長（工藤悠真君） 2番、葛西未々君。

○2番（葛西未々君） 以上で私の質問を終わります。

きょうは、つがる市の医療費が私たちのために役立っていることが分かりました。これからもつがる市の人々が幸せに暮らせるように、私も少し考えてみたいと思います。

た。

きょうはありがとうございました。

○議長（工藤悠眞君） 以上で2番、葛西未々君の一般質問を終わります。

◇ 江 良 啓 杜 君

○議長（工藤悠眞君） 3番、江良啓杜君の質問を許可します。

江良啓杜君。

〔3番 江良啓杜君登壇〕

○3番（江良啓杜君） 瑞穂小学校6年、江良啓杜です。よろしくお願ひします。

つがる市の縄文遺跡のことについて質問したいと思います。

つがる市には国の史跡に指定されている縄文遺跡が二つあります。亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚です。この二つの遺跡は、僕が住んでいる地域のすぐそばにあります。重要な遺跡がすぐ近くにあることを誇らしく思っています。また、ほかにもつがる市には、石神遺跡を始め実は130カ所も遺跡があるということをインターネットで調べて知り驚きました。

現在、北海道、北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざした活動が進められているとニュースで知りました。先ほど挙げた亀ヶ岡石器時代遺跡のところには、ことし縄文遺跡観光案内所が設置され、パンフレットを置くなどPR活動をしているようです。しかし、僕はまだそれだけでは足りないように思います。例えば、ショッピングモールや駅など多くの人が集まる場所でのPR活動です。僕はよくショッピングモールへ行くのですが、あまり見かけないように思うのです。

現在、先ほど言った場所でPR活動はしているのでしょうか。そのような活動をすれば、まずは、つがる市や県内の人に世界遺産登録について理解してもらえ我想います。

さらに、東京などの大都市での活動や、高速道路のサービスエリアなどにも広げていけばいいと思います。北東北のほかの市と協力して、お菓子やストラップなどの商品を開発して置き、積極的にPRして盛り上げていけば、世界遺産登録への一歩になるのではないのでしょうか。

つがる市が縄文遺跡のPR活動をどのように展開していく予定なのか、お聞かせください。

○議長（工藤悠眞君） 3番、江良啓杜君の質問に対し、答弁を求めます。

葛西教育長。

○教育長（葛西岨輔君） 江良議員のご質問にお答えいたします。

つがる市の縄文遺跡についてということでございます。

議員がおっしゃっているように北海道、北東北の縄文遺跡群は、17の遺跡で構成され、世界文化遺産登録を目指しております。17の遺跡のうち、つがる市には田小

屋野貝塚と亀ヶ岡遺跡の2つが入っております。PR活動、PRについてですが、つがる市単独ではなく、17の遺跡全体で縄文を理解してもらうことが、大変大切であります。現在、青森県の世界文化遺産登録推進室が中心となって、毎年6月から7月にかけて日曜日に、あおもりJOMONフェスタを県内4カ所で開催しております。ただ残念なことに、開催場所につがる市が含まれていないことから、今後、世界文化遺産登録推進室と協議しながら、つがる市でのイベント開催を行ってもらい、縄文遺跡をPRしていきたいと考えております。

また、来年度はつがる市東京事務所が開設されることから、つがる市の縄文遺跡のPR拠点にもなるのではないかと考えております。

お菓子やストラップなどの商品については、木造高校の生徒さんと地元のお菓子屋さんで共同でケーキ、サブレなどを開発し商品化をしておりますが、まだまだ種類が不足しておりますので、いろいろな関係機関と協議して増やしていきたいと考えております。

○議長（工藤悠真君） 3番、江良啓杜君。

○3番（江良啓杜君） ケーキやサブレのほかにもPRできるようなものが増え、世界遺産登録への運動が盛り上がることを願います。

これで質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（工藤悠真君） 以上で3番、江良啓杜君の一般質問を終わります。

◇ 井 上 朝 陽 君

○議長（工藤悠真君） 4番、井上朝陽君の質問を許可します。

井上朝陽君。

〔4番 井上朝陽君登壇〕

○4番（井上朝陽君） つがる市の文化について、2つ質問したいと思います。

私は今、つがる市森田町に住んでいますが、森田町の音楽文化と歴史文化について、気になることがあるのでお聞きしたいと思います。まず、音楽文化についてです。

森田小学校の吹奏楽部は松の館などで演奏会をしていますが、森田町にも吹奏楽部がすぐに演奏会ができる音楽ホールがあるといいと思いました。あと、つがる市には合唱団のようなものがないのが気になりました。合唱団があると歌が上手い人や好きな人がさらに活動する機会が多くなると思います。

次に、歴史的な文化についてです。森田町には、森田小学校の近くに民俗資料館がありますが、行く人はあまりいないので新しく博物館のようなものがあると思います。

以上2つのことについて、つがる市ではどのように考えているのかを、お聞きしたいと思います。

○議長（工藤悠真君） 4番、井上朝陽君の質問に対し、答弁を求めます。

葛西教育長。

○教育長（葛西岨輔君） 井上議員のご質問にお答えいたします。

つがる市の文化について。1点は音楽文化について、2点目は歴史的な文化についてということでございます。

森田町に吹奏楽部がすぐに演奏会ができる音楽ホールがあるといい、についてお答えいたします。

森田小学校また森田中学校ですが、吹奏楽部は先生の指導や児童、生徒の皆さんの頑張りで、数々の大会で入賞しております。また、演奏会などで素晴らしい演奏を聴く機会もたくさんあって大変喜んでいるところであります。

皆さんも勉強して知っていると思いますが、つがる市をはじめとする市町村は、ある程度限られた予算の中で、教育も含めた様々なサービスを提供していかなければなりません。そのことを踏まえたうえで、音楽ホールについては現在建設する予定はございません。できれば、夏場においては、地球村の円形劇場、市役所近辺では松の館、また、来年度、旧木造町中央公民館講堂など、素晴らしい演奏ができる場所がございます。その辺で考えていきたいと思っております。そして、ゆくゆくは、つがる市にとどまらず、いろんなところで活躍していただきたいと、そのように考えております。

次に音楽文化についてでございます。つがる市に合唱団のようなものがないのが気になる、というご質問ですが、現在、つがる市には、女性コーラスのサークルが2団体あります。その総合文化祭などで大変活躍しています。大きな合唱団はありませんが、議員おっしゃる通り歌の上手い人や好きな人が活躍できるよう、指導する方などにいろいろ働きかけて合唱団の設立が実現できるようお手伝いしていきたいと思っております。

最後に歴史的な文化について。新しく博物館のようなものがあればいい、というご質問です。

市内には森田歴史民俗資料館を含めて、全部で3つの展示施設があります。どの施設も建てられてから30年、40年たち老朽化が進んでいて、施設の統合なども考えなければならない時期になっております。具体的な計画はまだありませんが、将来的には、全国に自慢できる博物館を建てられるよう皆さんと一緒に頑張っていきたいとそのように思っております。

以上です。

○議長（工藤悠真君） 4番、井上朝陽君。

○4番（井上朝陽君） 僕もつがる市以外の人たちに自慢できるような文化についてがんばっていききたいと思っております。

以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（工藤悠真君） 以上で4番、井上朝陽君の一般質問を終わります。

◇ 秋 元 乃 愛 君

○議長（工藤悠真君） 7番、秋元乃愛君の質問を許可します。

秋元乃愛君。

〔7番 秋元乃愛君登壇〕

○7番（秋元乃愛君） 稲垣小学校6年、秋元乃愛です。よろしくお願いします。

つがる市の観光について質問します。

つがる市のPRのための費用負担と市職員の協力について質問したいと思います。

私たちは修学旅行3日前に北海道で大きな地震があったため、旅行先を北海道から東北方面へ変更し、予定より約1カ月遅れで行って来ました。そのため、事前学習では当初の旅行先であった函館はもとより、新たな旅行先であった仙台や平泉などについても調べてきました。その中で、函館や仙台と私たちが住んでいるつがる市を比較しながら進める中で、つがる市にもほかにはない様々な観光資源や特産物があることに気づきました。私は、そのようなつがる市の良さをもっと他県の人にもPRしたいと考えました。そこで、つがる市を知ってもらうために、手作りパンフレットを修学旅行先の駅や人の多い場所で配りたいと思います。同時に、つがるちゃんグッズやつがる市産のりんごジュースなどを、市の担当職員の方と一緒に配布できればインパクトが強まると思います。その費用をつがる市で負担し、市の職員の方を現地に派遣してくださることは可能でしょうか。可能であれば、私たちはもう卒業なので、本校の5年生に託していきたいと考えています。

どうぞ考えをお聞かせください。

よろしくお願いします。

○議長（工藤悠真君） 7番、秋元乃愛君の質問に対し、答弁を求めます。

経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 秋元議員の、つがる市の観光PRについてのご質問にお答えします。

現在つがる市では、姉妹都市として交流している北海道白老町や千葉県柏市などのイベントに毎年参加して、つがる市産のメロンやスイカ、リンゴなどの農産物を積極的にPRしています。また、つがるちゃんグッズの販売やつがる市の観光パンフレットを配布し観光PRも同時に行っております。

秋元議員がおっしゃるように、駅など人が多く集まる場所ではつがる市をPRすればとても効果があると思います。市の職員だけでなく、小、中学生も含め、市民みんなと一緒にPRしていきたいと思いますのでご協力をお願いします。

以上でございます。

○議長（工藤悠眞君） 7番、秋元乃愛君。

○7番（秋元乃愛君） 分かりました。

姉妹都市だけでなく全国の人につがる市を知って欲しいと思っているので、私にできることであれば是非協力したいと思います。

以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（工藤悠眞君） 以上で7番、秋元乃愛君の一般質問を終わります。

◇ 秋 田 莉 那 君

○議長（工藤悠眞君） 8番、秋田莉那君の質問を許可します。

秋田莉那君。

〔8番 秋田莉那君登壇〕

○8番（秋田莉那君） 車力小学校6年、秋田莉那です。よろしくお願いします。

シジミ保護、不漁対策について質問します。

ことし十三湖のシジミは不漁だったと聞いています。私のお父さんやおじいちゃんはシジミ漁をしていますが、7月から8月にかけては、週に一度しか仕事がなかったそうです。お父さんやおじいちゃんは、仕事が少なくて困っていました。

不漁の理由としてまず考えられるのは、小さなシジミが多く、ちゃんと成長していません。出荷できるような大きさにならなければ漁ができません。また、シジミそのものの数も不足だったことも考えられます。シジミがうまく成長したり増えたりできないのは、水質にも関係があるのかもしれませんが。十三湖のシジミは、おいしくて有名です。十三湖のシジミ漁は、つがる市の産業の一部でありブランドでもあります。ことしのような不漁が続かないように、つがる市として水質をきれいに保つ工夫など、何か対策をとっているのかお聞きしたいです。

○議長（工藤悠眞君） 8番、秋田莉那君の質問に対し、答弁を求めます。

経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 秋田議員のシジミ保護、不漁対策についてのご質問にお答えします。

十三湖のシジミについては、車力漁業協同組合において、シジミを継続的に採取するため期間や漁獲数量など厳重に管理し、大事なシジミ資源を守るために規制を強化して保護に努めていると聞いています。

秋田議員が言うとおり、ことしは資源状況が悪く週1日の操業が続いたとのことであり、不漁の原因としては、昨年夏にヤマセの日が多く冷夏となったことにより、シジミの産卵や成長に遅れがあったものと考えています。

車力漁業協同組合では、毎年十三湖の清掃を行うとともに安定生産のために研究を重ね、シジミの成長環境の維持に努めております。

市としてもシジミブランドを守るため、車力漁業協同組合が行うシジミ貝資源増殖事業などの漁業振興対策に補助しているところであります。また、下水道を整備し、河川や十三湖の水質が汚染されないように努めております。

以上でございます。

○議長（工藤悠真君） 8番、秋田莉那君。

○8番（秋田莉那君） ご回答ありがとうございます。

水質をきれいに保っていても、やませや冷夏により不漁だったことが分かりました。これからもおいしいシジミを食べたいので、漁業振興対策の補助や下水道の整備を続けてもらいたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（工藤悠真君） 以上で8番、秋田莉那君の一般質問を終わります。

ここで10分間の休憩をします。

休憩 午前10時30分

再開 午前10時40分

〔副議長 小笠原音々君登壇〕

○副議長（小笠原音々君） ここから工藤議長に代わって、わたし副議長の小笠原が議事を進めますので、ご協力をお願いします。

休憩前に引き続き、会議を再開します。

◇ 高 橋 杏 君

○副議長（小笠原音々君） 10番、高橋杏君の質問を許可します。

10番、高橋杏君。

〔10番 高橋 杏君登壇〕

○10番（高橋 杏君） 穂波小学校6年、高橋杏です。よろしくをお願いします。

つがる市の少子高齢化について質問したいと思います。

私はこのつがる市で生活していますが、少子高齢化について2つほどお聞きしたいと思います。

1つ目は、少子化についてです。現在、少子高齢化で、つがる市は子どもの医療費が無料、保育費の第2子からの無料化などを行っていますが、その効果はあるも

のなのか。そして無料化を行い、つがる市の子どもは増えたものなのかをお聞きしたいです。

2つ目は、高齢化についてです。子どもが少なくなる代わりに高齢者が増えていますが、つがる市はどのような対策をしているのですか。子どもの場合は医療費が無料など対策がとられています。高齢者にはそのような対策はとられているものなのかをお聞きしたいです。

これらの少子高齢化の問題で、子ども、高齢者にそれぞれどんな対策をとっているのか、また、どんな計画などがあるものなのかをお聞きしたいです。

○副議長（小笠原音々君） 10番、高橋杏君の質問に対し、答弁を求めます。

民生部長。

○民生部長（山谷 智君） ただいまの高橋議員のご質問にお答えします。

私からは、（1）少子高齢化についての①少子化についての、その質問にお答えいたします。

まず、お子さんが生まれる数は、年々緩やかに減少しております。市の人口統計では、つがる市となった2005年と現在を比べると、子育て世代と言われる20代から40代の人口は、4,000人以上と大幅に減少してございます。その要因として考えられるのは、仕事の都合でつがる市外へ行かれる方や結婚して市外へ行かれる方が、市内へ来られる方より多いからと思われまます。ただ、第3席、穂波小学校、葛西議員からのご質問にもありました、こども医療費の無料化や第2子からの保育費無料化などに、お子さんが生まれる数が子育て世代の人口減少に比べて緩やかに減少していることは、少子化対策として一定の効果はあったものと考えてございます。

以上です。

○副議長（小笠原音々君） 福祉部長。

○福祉部長（白戸 登君） 私からは、高橋議員の高齢対策についてお答えします。

高齢化につきましては、2025年まで高齢者の増加が予想され、医療や福祉などの社会保障問題が全国的に深刻化しているところです。

本市の高齢者に対する対策につきましては、健康面の対策として高齢者インフルエンザ予防接種助成事業や高齢者を含め、一般の方を対象にした基本健診や各種がん検診の無料化を実施しており、病気の予防や早期発見、早期治療に努めているところです。

また、福祉的な事業としては、一人暮らしの高齢者が安心な生活を送れるよう配食サービスや緊急通報装置の設置など、高齢者が必要としている事業を実施しているところです。

次に、介護が必要になった方に対しては、介護保険サービスの基盤整備などを進めており、つがる市老人福祉計画・介護保険事業計画を策定して、様々な事業やサービスに取り組んでいるところです。

以上です。

○副議長（小笠原音々君） 10番、高橋杏君。

○10番（高橋 杏君） 以上で私の質問を終わります。

少子高齢化の対策のために、つがる市でいろいろな取り組みをしていることが分かりました。

ありがとうございました。

○副議長（小笠原音々君） 以上で10番、高橋杏君の一般質問を終わります。

◇ 中 村 舞 君

○副議長（小笠原音々君） 11番、中村舞君の質問を許可します。

11番、中村舞君。

〔11番 中村 舞君登壇〕

○11番（中村 舞） 瑞穂小学校6年、中村舞です。よろしくお願ひします。

私は、つがる市の総合スポーツ施設の設置について要望があります。

その理由の一つ目は、大会を行える陸上競技場がつがる市にはないことです。私は現在、瑞穂小学校で陸上クラブに入り陸上の練習をしています。練習の成果を發揮し自分の力を試すために、年間、多くの陸上大会に参加しました。そのほとんどは中泊町にある陸上競技場で行われています。大会に参加するためには、朝早くから移動しなければいけないため家族の負担も大きいです。また、つがる市からもたくさんの小学校が参加していることを考えると、つがる市に設置すると利用したいと思う人は多いと思います。

二つ目の理由は、学校にプールがないためクラスの中でも泳げない人が多いということです。私たちの学校以外にも、つがる市ではプールのない学校がいくつかあるようです。鱒ヶ沢町のプールを借りて水泳教室を1、2回行っている学校もあるようですが、移動に時間がかかり実際に泳ぐ時間が短くなると聞きました。すぐ近くにみんなが利用しやすいプールがあると、泳げる人も多くなり夏の水での事故防止にもつながると思います。建設費用が多くかかるとは思いますが、夏の期間、有料でプールを市民に開放したり、大会を計画したりすることで少しでも返していけるのではないかと考えます。このように、プール付きの総合運動施設が設置されると、小学生やお年寄りが運動する機会も増え、つがる市の健康改善にもなるのではないかと思います。

つがる市では、このようなスポーツ施設を設置することについて、何か計画があるのかお聞きしたいです。

○副議長（小笠原音々君） 11番、中村舞君の質問に対し、答弁を求めます。

教育部長。

○教育部長（長内信行君） それでは中村議員の質問にお答えします。

質問の中でおっしゃる通り、現在つがる市には大会を行えるような陸上競技場はご

ざいませぬ。また、プールについてもすべての小学校には設置していません。陸上競技場、プールに共通することですが、自分の住んでいる地域、また、通っている学校に、そのような施設があれば、それが一番いいと私たちも思っています。ただ、施設の建設やそれを維持していくためにはたくさんのお金がかかります。中村議員も勉強してわかっていると思いますが、市役所では生まれる前の子供からお年寄りまでの福祉サービスや農業などの産業、皆さんの教育、スポーツ、歴史文化また道路や上下水道の整備など様々な住民サービスを必ずやらなければいけないもの、効果が高く得られるもの等よく見極めて、そして限られた予算の中で行っていかねばなりません。これはつがる市だけに限らず、どこの市町村も同じです。そのため、今現在は陸上競技大会、水泳競技大会などは、それぞれの施設を持っているほかの町などをお願いして、津軽地方で広域的に大会を行う連携をとっています。

また、つがる市では大会会場までの移動には、できるだけ父兄の負担をなくすようスクールバスの利用に努めています。プールについても、つがる市になる前の旧5町村の区域には、プールを残すように配慮しています。その点どうぞ、ご理解くださるようお願いいたします。

そして、つがる市では、する、みる、つなぐのスポーツ推進、交流拠点として、誰もが、スポーツやレクリエーション、イベントに集える広場のような体育館として。そして、地域文化、産業情報の発信機能、地域防災拠点機能として集い、にぎわい、結びつきが次世代へつなげる交流拠点となる総合体育館を市役所の隣に建設します。

この施設は、議員がおっしゃる子供からお年寄りが運動する場所にもなり、健康改善にもつながります。同時に、この総合体育館は、つがる市だけにとどまらず津軽地域で広域的に利用されることになっていくと思っています。完成は2022年の予定となっていますので、みんなでスポーツやイベントなどに利用していただければと思っています。

以上でございます。

○副議長（小笠原音々君） 11番、中村舞君。

○11番（中村 舞） 統合スポーツ施設がすぐに設置されないのは残念ですが、新しい体育館を健康改善のために使っていきたいです。

以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○副議長（小笠原音々君） 以上で11番、中村舞君の一般質問を終わります。

◇ 今 亜 由 美 君

○副議長（小笠原音々君） 12番、今亜由美君の質問を許可します。

12番、今亜由美君。

[12番 今 亜由美君登壇]

○12番（今 亜由美君） 森田小学校6年、今亜由美です。よろしくお願ひします。

つがる市の国際交流について質問したいと思ひます。

私のクラスで去年3人の人が美術のことで韓国のチェジュ島というところに行つて、韓国の小学生たちと交流しました。ことしは韓国の小学生たちが青森県に来ていたそうです。その時の写真や作品を見せてもらいました。韓国の人たちと仲良くなつて、お互いに韓国語で話せるようになってきている人もいました。このような交流は、とてもいい事だと思ひています。

現在、このことについて、つがる市ではどのような事を行っているのかをお聞きしたいと思ひます。

○副議長（小笠原音々君） 12番、今亜由美君の質問対し、答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（今 正行君） それでは、今議員のつがる市の国際交流について、のご質問にお答えします。

今や、日本中の観光地に外国人観光客が訪れており、外国人と出会うことが珍しいことではなくなりました。こうした中、つがる市では、異なる国の人と文化交流を深め、国際感覚豊かな人材を育成するため、平成2年度から旧車力村が行っていた国際交流、相互訪問事業を姉妹都市であるアメリカ合衆国メイン州バス市との間で、これまで28回実施してまいりました。この事業の特色は、ただ相互訪問するだけではなく、ホームステイをメインとして実施しているところです。お互いの国、人を知るためには、日常の生活を体験、経験することが必要で大事だと考えているからです。ことしもつがる市から中学生15名、バス市から10名の訪問団が結成され、交流が行われたところであります。

2020年には、小学校3から4年生までは外国語活動、そして5年生から6年生では外国語が教科化されが開始されます。日本の小学校では、外国語といえば英語ですので、これまで以上に英語が身近なものとなり、生活の中に入ってくることになります。つがる市では、国際交流事業ほかアメリカからの国際交流員の配置、それから、外国語指導助手の学校配置などを行い、早くから国際化に向けた対応をしてまいりました。

これまで米国バス市を訪問した中学生の中には、この交流事業を契機に、自身の英会話能力の向上やコミュニケーション能力の向上に努め、弁論大会や発表会などで優秀な成績を収めた人が数多くおります。

今議員におかれましても、中学へ進学されましたら是非交流事業に参加し、グローバル化が進む社会を感じ、世界へと視野を広げていただきたいと思います。

以上です。

○副議長（小笠原音々君） 12番、今亜由美君。

○12番（今 亜由美君） 以上で私の質問を終わります。

私は、このようなことを中学校や高校で関わってみたいと思ひました。

ありがとうございました。

○副議長（小笠原音々君） 以上で12番、今亜由美君の一般質問を終わります。

◇ 川 添 瑠 菜 君

○副議長（小笠原音々君） 13番、川添瑠菜君の質問を許可します。
13番、川添瑠菜君。

[13番 川添瑠菜君登壇]

○13番（川添瑠菜君） 育成小学校6年、川添瑠菜です。よろしくお願いします。

教育クラウドに対する財政の計画について質問します。

つがる市の財政状況資料集を見て、つがる市の教育費が県平均や全国平均を大きく上回っていることを知りました。つがる市が教育に力を入れて下さっていることを知り、大変うれしく思い、その期待に応えなければと身が引き締まる思いです。

さて、最近ICTを活用して、学校と家庭、地域をつないで町づくりをしているところがあることを知りました。総務省のサイトを見ると、ICTを活用したことによって入学してくる子供の数が増えたり、学力が向上したりしているそうです。私が通っている学校にタブレットが1台あり、授業中に使ってとても役に立っています。しかし、たった1台なので順番待ちをすることになり時間がかかります。できれば1人1台。せめて班やグループで1台使えると勉強がスムーズになると思っています。また、教育クラウドではほかの学校と繋がって一緒に勉強することもできます。

つがる市では、学校と家庭・地域をつなぐ教育クラウドについて、どのように考えているのかお聞きしたいです。

○副議長（小笠原音々君） 13番、川添瑠菜君の質問に対し、答弁を求めます。
教育部長。

○教育部長（長内信行君） 川添議員のご質問にお答えします。

まず、教育クラウドは、学校、地域、家庭、教育委員会などをネットワークで繋ぐ教育向けのオンラインサービスです。国でも2014年から実験を始めていますが、まだまだ先進的な取り組みであり、導入に向けての課題もあるようです。今後の全国の状態、また、つがる市の地域性を考慮しつつ、教育クラウドの導入については、検討する必要があると考えています。

次に、ICT機器については、市内8校の小学校、5校の中学校に順次整備し、今はすべての学校でICTを活用した授業が行われています。ただ、議員のご質問の中で触れていますが、十分な数の機器が行き渡っていない現状も認識しております。今後、教育委員会としては、学校側と協議し、財政とも協議しながら、ご要望に応じていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

○副議長（小笠原音々君） 13番、川添瑠菜君。

○13番（川添瑠菜君） それでは学力の向上、たくさんの人々の触れ合いのためにも、早めの協議をお願いいたします。

以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○副議長（小笠原音々君） 以上で13番、川添瑠菜君の一般質問を終わります。

◇ 川 浪 真 鈴 君

○副議長（小笠原音々君） 14番、川浪真鈴君の質問を許可します。

14番、川浪真鈴君。

[14番 川浪真鈴君登壇]

○14番（川浪真鈴君） 柏小学校6年、川浪真鈴です。よろしくお願ひします。

私は、最近のつがる市の交通状況について質問します。

9月30日で鶴田線の弘南バスの運転が終了し、市のバスが運行を開始しましたが、そのバスはイオンモールつがる柏までしか行かなくなりました。イオンモールつがる柏から乗り換えて、木造方面や五所川原方面に行くことはできますが、そのまま真つすぐに行くことができなくなりました。また、土日、祝日は運行されません。

お年寄りの方の中には、車を持っていない方や休日に出かけたい方もいると思います。そして、今は冬なので、お年寄りの方が歩いている時にすべって転んでしまう可能性もあります。

そこで、お年寄りの方が利用しやすい交通手段を、市では今後準備する予定があるのかお聞かせください。また、予定がないのであれば、市のバスが土日、祝日も運行されるということはないのですか。

市の考えをお聞かせください。

○副議長（小笠原音々君） 14番、川浪真鈴君の質問に対し、答弁を求めます。

総務課長。

○総務課長（高橋一也君） それでは、川浪議員の質問にお答えします。

まず、ご質問の中にありました鶴田線の廃止の理由ですけれども、近年、利用者が減少したことによってバス路線を維持することが困難となったことから、これまでは経費の一部を国、県、そしてバスが走っている市や町が補助することで運行していました。しかし、鶴田線について利用する乗客がさらに少なくなったことから、国、県の補助金が支払われないことになって、市や町、つがる市と五所川原市、鶴田町とバス会社が話し合いを重ねた結果、今回、廃止することになりました。路線が廃止となっても、通学や通院などでバスを必要とする方がいると思われることから、つがる市では1年の期間を定めて、今回、廃止となった路線、鶴田線を含めて全部で四つの路線があるんですけれども、その路線に試験的に市のバスを運行しています。この1年の間に本市の将来の公共交通をどのようにするかの方針を定めることになっています。この方針では、議員の質問にもあります、お年寄りの方の利用しやすい交通や土日、祝日はどうするのかといったことも検討していきます。

今後、いろいろな方の意見などを聞き、どのような方法がつかがる市にとって適しているのか検討し準備していきたいと考えております。小学生議員のみなさんの意見も大いに参考にしたいと思っておりますので、ご意見のある方は市役所へ遠慮せずに寄せていただくようお願いいたします。

以上です。

○副議長（小笠原音々君） 14番、川浪真鈴君。

○14番（川浪真鈴君） 弘南バスの鶴田線が話し合いを重ねてなくなったことが分かりました。お年寄りの方が利用しやすい交通についての私の意見を市役所に出したいと思っております。一年後に弘南バスに替わるお年寄りの方が利用しやすい交通が整備されることを願います。

これで私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○副議長（小笠原音々君） 以上で14番、川浪真鈴君の一般質問を終わります。

◇ 蝦 名 亮 君

○副議長（小笠原音々君） 15番、蝦名亮君の質問を許可します。

15番、蝦名亮君。

〔15番 蝦名 亮君登壇〕

○15番（蝦名 亮君） 稲垣小学校6年、蝦名亮です。よろしく申し上げます。

つがる市の学校教育のことについて2つ質問します。

1つ目は、防災に関わってのことです。日本は、全国どこにいても大きな地震がいつ起こるか分からない現状にあります。命を守る訓練を年に6回も行っています。ただ、実際に何かあったときのことを考えると、学校は教室も廊下もどこへ行ってもガラスがあって、割れたら本当に怪我なく逃げられるのかなとか、吹雪いているときにジャンパーを持たずに避難して凍えてしまわないのかなとか、いろいろ不安になります。今後のことを考えて、頭を守るものや便利な保温シートなど、ひとりに1つ使用できる数を学校に備えて置くなどの防災対策についての考えを聞かせてください。

2つ目は、学校の遊具についてです。稲垣小学校には遊具は鉄棒しかありません。統合する前の稲垣西小学校には雲梯やブランコがあったそうです。稲垣小学校は、学年関係なくみんなが仲良しです。上の学年が下の学年の面倒を見ながら休み時間も遊んでいます。もっと楽しく、さらに体力もつけられたり遊びのルールを学んだりできる雲梯とブランコなどの遊具を小学校に設置し充実させていくという計画はないのでしょうか。

どうぞ考えを聞かせてください。

○副議長（小笠原音々君） 15番、蝦名亮君の質問に対し、答弁を求めます。

教育総務課長。

○教育総務課長（鳴海義仁君） 蝦名議員の質問にお答えします。

まず、防災についてでございますけれど、防災ヘルメットについては過去にも話になったことがあります。学校に設置というよりは個人で買ってもらうことになるかと思えます。参考までに市内8校の小学生全部で1,346人おりますけれど、全員に折り畳み式の防災ヘルメットを用意すると約600万円かかります。今後、費用負担のことも含めて検討していきたいと考えております。

次に保温シートですが、災害発生時には柏地区と稲垣地区にある防災倉庫から、各避難所へ毛布などを輸送することとなっておりますので、それに対応することとしております。

次に学校遊具についてございます。稲垣小学校のグラウンドには、野球場、ソフトボール場があり、安全面を考えると設置場所がないと聞いたことがあります。今後、再度調査して安全な設置場所があれば、学校側からの要望も踏まえて前向きに検討していきたいと考えております。

○副議長（小笠原音々君） 15番、蝦名亮君。

○15番（蝦名 亮君） 今のお話を聞いて、つがる市はいろいろな対策を考えてくださっていると分かりました。これからも自分の命は自分で守ることを心がけていきたいと思えます。

遊具については、設置してくれるとみんなが喜ぶので是非お願いします。

これで私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○副議長（小笠原音々君） 以上で15番、蝦名亮君の一般質問を終わります。

◇ 村 上 日 向 汰 君

○副議長（小笠原音々君） 16番、村上日向汰君の質問を許可します。

16番、村上日向汰君。

〔16番 村上日向汰君登壇〕

○16番（村上日向汰君） 車力小学校6年、村上日向汰です。よろしく申し上げます。

日本全体の問題として人口の減少があげられますが、私たちが住んでいるつがる市でも人口減少が進み、合併した平成17年には4万人以上あった人口が、平成27年には3万3,000人ほどになってしまいました。このまま人口が減り続けると、僕が大人になった頃にはどうなっているのかと不安になることがあります。僕は、若い人がこのつがる市からいなくならないように、若者のつがる市定住計画があれば、人口の減少を少しでも防ぐことができると考えました。

しかし、現在のつがる市は、将来の時代を担う若者が働きやすい環境や職場が減っているのではないかと考えています。働きやすい環境が整っていなければ、若者が定

住する確率が低くなる上、元々つがる市で働いている人の生活も安定しなくなってしまう。なので、まず、誰もが安心して働ける環境や職場を作ったり、若者につがる市に定住してもらえるようなPRをしたりする必要があります。

つがる市では、若者のつがる市定住について、何か計画や予定があるのかお聞かせください。

○副議長（小笠原音々君） 16番、村上日向汰君の質問に対し、答弁を求めます。
総務部長。

○総務部長（今 正行君） それでは、村上議員のご質問にお答えします。

村上議員ご指摘のように、つがる市では人口が減少傾向にあります。この人口減少については、東京へ若者をはじめ多くの人々が流出する一極集中的な傾向が続いているため、東京一極集中を是正し地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を向上させる目的で、全国各地で地方創生への取り組みが盛んに行われております。

つがる市では、「つがる市地域活力創生総合戦略」という計画を策定し、つがる市人口ビジョンに示される、悪いことが続けざまに起きる負のスパイラルからの脱却を目指し、人口減少に対し戦略的な施策を総合的に展開しております。

基本目標として、「魅力ある就労・雇用の場を創出する」や「ここに住みたいと思えるまちをつくる」などを掲げており、具体的な施策としては、移住世帯の住宅の取得に補助を行う「移住者マイホーム応援事業」や若い人の入るアパートの家賃補助を行う「子育て・若年夫婦世帯移住応援事業」、それから、新たにアパート建築する人に補助をする「民間賃貸住宅建設支援事業」などの事業を実施し、移住、定住を促進しているところであります。

○副議長（小笠原音々君） 16番、村上日向汰君。

○16番（村上日向汰君） ご回答ありがとうございます。

つがる市では定住計画だけでなく移住者を応援する事業も総合的に行っていることが分かりました。これからも続けて人口減少を防いで、魅力あるまちを作ってもらいたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○副議長（小笠原音々君） 以上で16番、村上日向汰君の一般質問を終わります。

これで本議会に通告された一般質問は、すべて終了しました。

以上で一般質問を終結します。

◎市長あいさつ

○副議長（小笠原音々君）　ここで、市長から発言の申し出がありますので、これを許可します。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君）　まずは児童の皆さん、ご苦労さまでございました。そして、議長役の工藤さん、副議長役の小笠原さん、ともに立派な進行で大変感心しました。14名の皆さんからの質問は、私をはじめ各分野の担当職員においても、改めて感慨深いものでした。

つがる市は、総務、農林水産、建設、土木、高齢、児童福祉、教育民生と多岐に亘り、様々な課題に取り組んでいます。そのひとつ一つは、地域に住む皆さんに直結することでありまして、問題点の解消させるためには一朝一夕とはいきません。中国の古い時代のことわざに一視同仁という言葉があります。皆さん後で調べてみてください。これは、全ての人を分け隔てなく愛することの意味だそうです。私は日頃からこの言葉を心にとめて、どの分野においても、全ての人に思いやりを持って接することを心構えとして、様々な課題に取り組んできました。きょうの皆さんの元気で一生懸命な姿を見て、つがる市の基本理念の「新田の歴史が彩る日本のふるさと」これを強く意識しながら、市民が積極的にまちづくりに参画していただきながら、郷土の個性に誇りと愛着を感じるまちの姿を目指すことが、私、市長としての使命だと改めて感じています。

最後に皆さんは、これからの日本の将来を担っていきます。私は皆さんに無限の可能性を感じ、つがる市また日本の未来を託したいと思います。勉強やスポーツなど頑張ってください。

終わります。

◎副議長あいさつ

○副議長（小笠原音々君）　以上で本日の日程はすべて終了しました。

本日は、福島市長をはじめ、理事者の皆様から大変わかりやすく丁寧な答弁をいただき感謝しています。

最初は緊張していましたが、議場の雰囲気にも徐々に慣れ、各校から選ばれた代表の議員としての思いを伸び伸びと質問できたと思います。私たちはこの貴重な経験を生かして、つがる市の行政や地域社会に関心を持ち、これからも勉強やスポーツに頑張っていきたいと思います。

福島市長はじめ、理事者の皆様からいただいたご協力に深く感謝します。

◎閉会の宣言

○副議長（小笠原音々君） これで、こども議会を閉会します。

ありがとうございました。

○議会事務局長（成田幸祐君） これより修礼を行いますので、ご起立ください。
礼。

〔修礼〕

○議会事務局長（成田幸祐君） ご着席ください。

（午前 11 時 22 分）

会議の経過を記載して、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成30年12月26日

議長 工藤 悠真

副議長 小笠原 音々

署名議員 高西 未々

署名議員 江良 啓杜